

様式第二号の九(第八条の四の六関係)

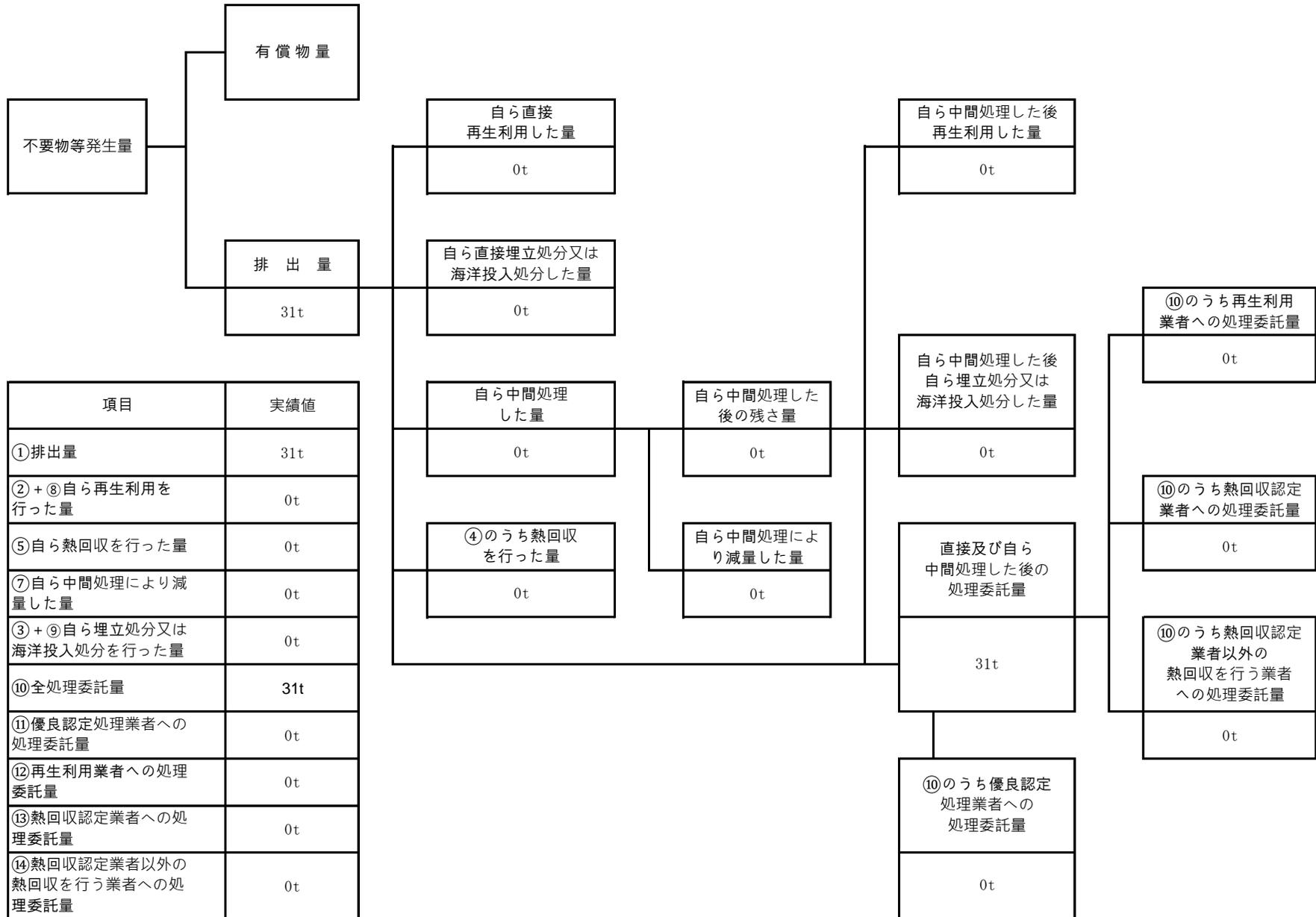
(第1面)

産業廃棄物処理計画実施状況報告書			
北九州市長 武内 和久 様		2024 年 6 月 27 日	
提出者			
住 所 北九州市若松区藤ノ木 2-4-8			
氏 名 新興アルマー工業株式会社			
代表取締役 新美 芳彦			
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)			
電話番号 093-791-0435			
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第 12 条第 10 項の規定に基づき、令和 5 年度の産業廃棄物処理計画の実施状況を報告します。			
事業場の名称	新興アルマー工業株式会社		
事業場の所在地	北九州市若松区藤ノ木 2-4-8		
事業の種類	熔融アルミめっき(製造業)		
産業廃棄物処理計画における計画期間	2023.4.1~2024.3.31		
産業廃棄物処理計画における目標値			
項目	目標値	項目	目標値
排出量	750 t	全処理委託量	75 t
自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	優良認定処理業者への処理委託量	75 t
自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	再生利用業者への処理委託量	t
自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	700 t	認定熱回収業者への処理委託量	t
自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t
※事務処理欄			

(日本工業規格 A列4番)

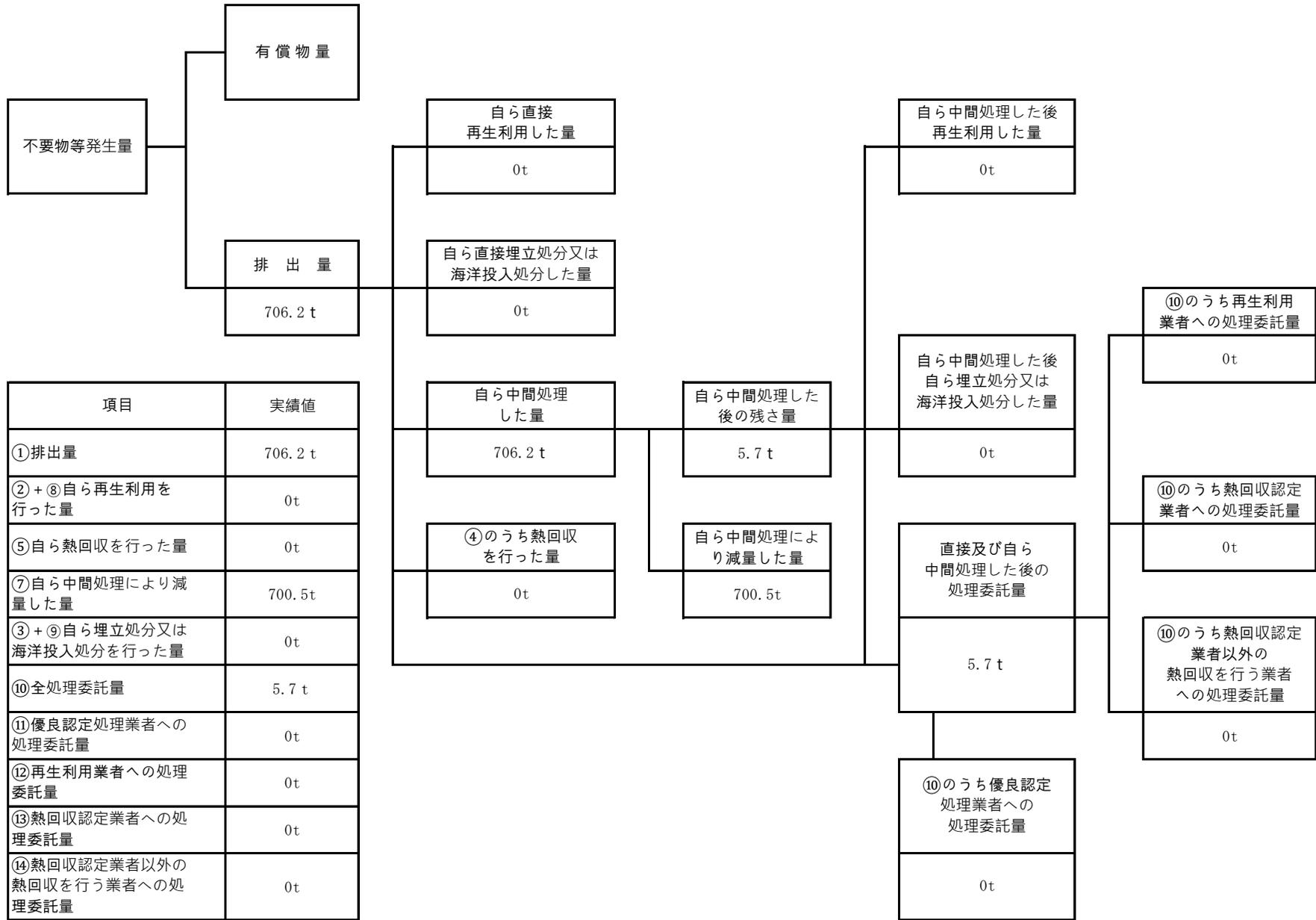
計画の実施状況

(産業廃棄物の種類 : 鋳さい)



計画の実施状況

(産業廃棄物の種類 : 汚泥)

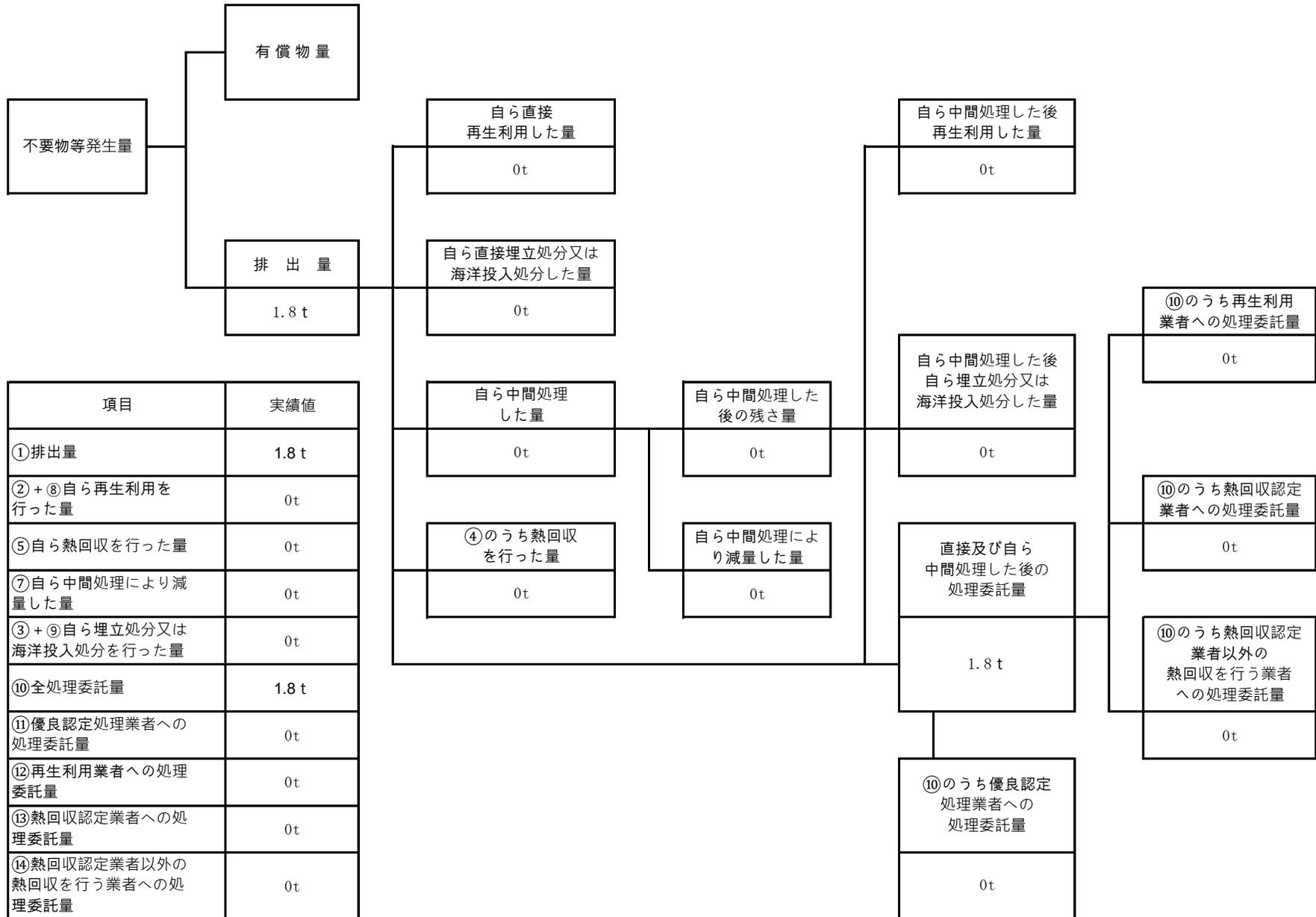


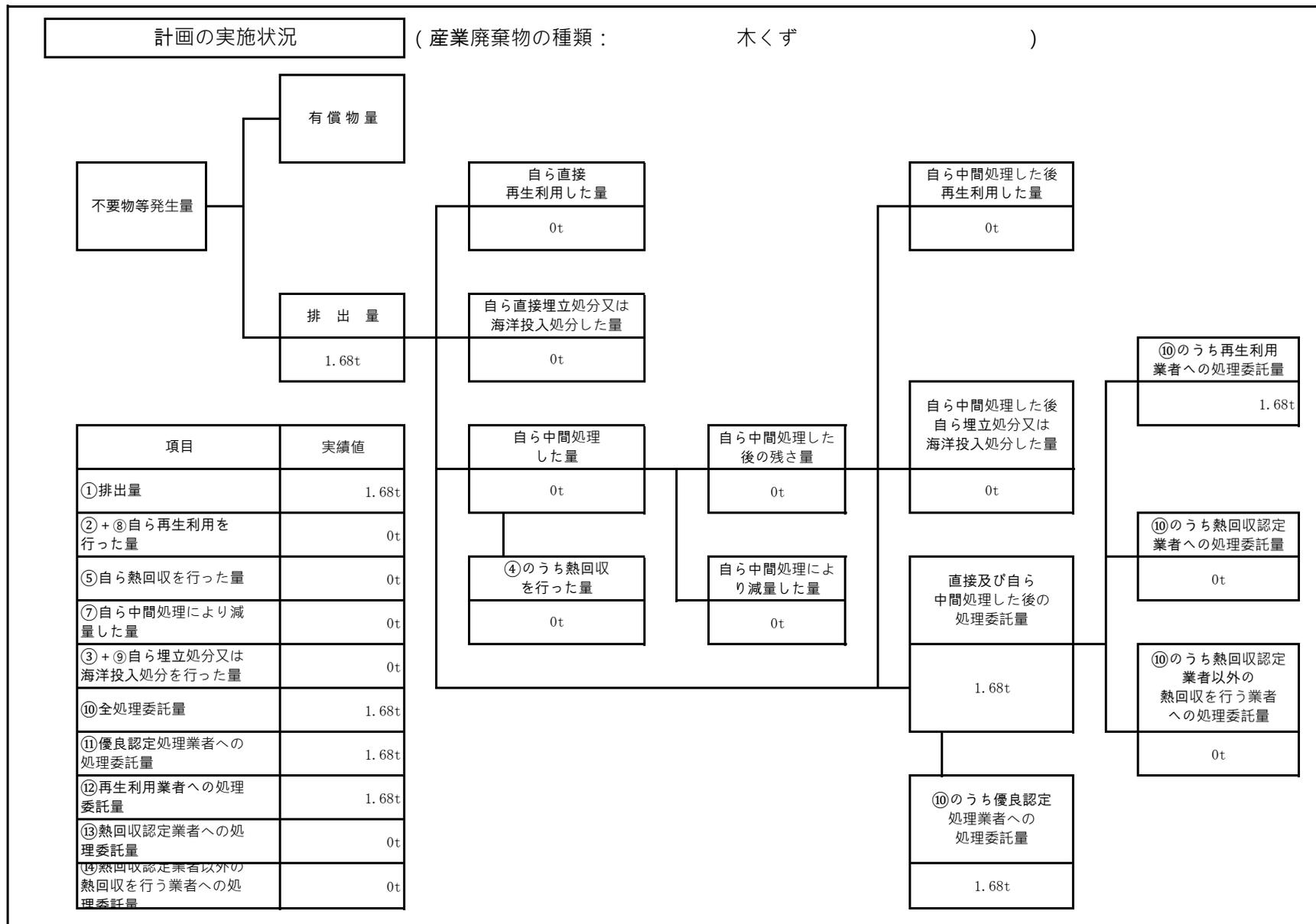
計画の実施状況

(産業廃棄物の種類 :

ガラス・陶磁器

)





(第3面)

備考

- 1 翌年度の6月30日までに提出すること。
- 2 「事業の種類」の欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
- 3 「産業廃棄物処理計画における目標値」の欄には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に記載した目標値を記入すること。
- 4 第2面には、前年度の産業廃棄物の処理に関して、①～⑭の欄のそれぞれに、(1)から(14)に掲げる量を記入すること。
 - (1) ①欄 当該事業場において生じた産業廃棄物の量
 - (2) ②欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら再生利用した量
 - (3) ③欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら埋立処分又は海洋投入処分した量
 - (4) ④欄 (1)の量のうち、自ら中間処理をした産業廃棄物の当該中間処理前の量
 - (5) ⑤欄 (4)の量のうち、熱回収を行った量
 - (6) ⑥欄 自ら中間処理をした後の量
 - (7) ⑦欄 (4)の量から(6)の量を差し引いた量
 - (8) ⑧欄 (6)の量のうち、自ら利用し、又は他人に売却した量
 - (9) ⑨欄 (6)の量のうち、自ら埋立処分及び海洋投入処分した量
 - (10) ⑩欄 中間処理及び最終処分を委託した量
 - (11) ⑪欄 (10)の量のうち、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量
 - (12) ⑫欄 (10)の量のうち、処理業者への再生利用委託量
 - (13) ⑬欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量
 - (14) ⑭欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量
- 5 第2面の左下の表には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に記載したそれぞれの実績値を記入すること。
- 6 産業廃棄物の種類が2以上あるときは、産業廃棄物の種類ごとに、第2面の例により産業廃棄物処理計画の実施状況を明らかにした書面を作成し、当該書面を添付すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

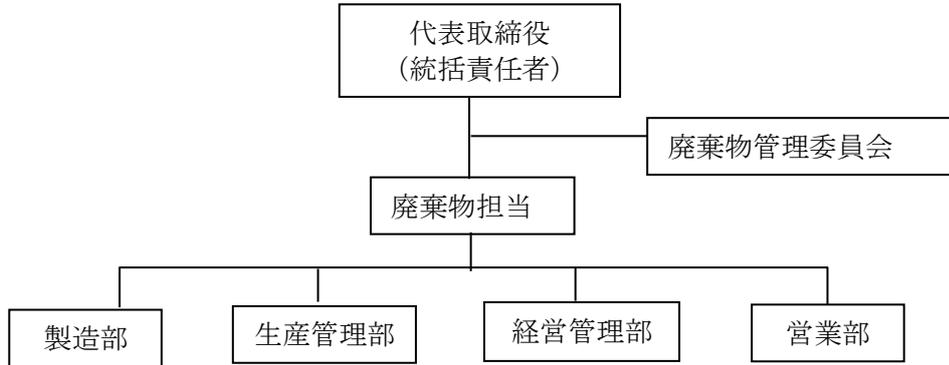
産業廃棄物処理計画書	
2024 年 6 月 27 日	
北九州市長 武内 和久 様	
提出者	
住 所 北九州市若松区藤ノ木2-4-8	
氏 名 新興アルマー工業株式会社	
代表取締役 新美 芳彦	
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)	
電話番号 093-791-0435	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	新興アルマー工業株式会社
事業場の所在地	北九州市若松区藤ノ木2-4-8
計画期間	2024.4.1~2025.3.31
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	溶融アルミめっき(製造業)
②事業の規模	資本金 25百万円
③従業員数	27人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙①参照

(日本工業規格 A列4番)

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（ 5 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙②参照	
	排 出 量	t	t
	(これまでに実施した取組) <u>鋳さい</u> 受注予測を行って、無駄な稼働を減らし効率的な生産を行って発生量を抑制している。 <u>汚泥</u> 酸、アルカリの更新・濃度低下の対策を講じ、発生量を抑制している。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	排 出 量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 鋳さい：専用のストックヤードを設け分別している。 汚 泥：専用のストック用バケツを設け分別している。 ガラスくず：専用のストック用バケツを設け分別している。 廃プラスチック類：専用のストック用バケツを設け分別している。 木くず：専用のストック用バケツを設け分別している。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（ 5 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙②参照	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	（これまでに実施した取組） 廃フラックス中の有用成分を抽出し、フラックスとして再利用する実験を行っている。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙②参照	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	（今後実施する予定の取組） 上記試験を進め、できる限り再利用化できるよう度量する。		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（ 5 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙②参照	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
（これまでに実施した取組） 汚泥 脱水した後十分に乾燥させ処理残渣量を削減している。			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙②参照	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
（今後実施する予定の取組） 別紙②参照 現状維持			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（ 5 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度（ 5 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組)		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙②参照	
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

二号の八別紙①

産業廃棄物の一連の処理の工程



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

【前年度（ R5 年度）実績】

産業廃棄物の種類	鉋さい	汚泥	ガラスくず	廃プラスチック類	木くず
排出量	31 t	706.2 t	1.8t	0t	0.68t

【目標】

産業廃棄物の種類	鉋さい	汚泥	ガラスくず	廃プラスチック類	木くず
排出量	50 t	700 t	5t	10t	5t

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

【前年度（ R5 年度）実績】

産業廃棄物の種類	鉋さい	汚泥	ガラスくず	廃プラスチック類	木くず
自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t

【目標】

産業廃棄物の種類	鉋さい	汚泥	ガラスくず	廃プラスチック類	木くず
自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0t	0 t	0 t	0 t	0 t

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

【前年度 (R5 年度) 実績】

産業廃棄物の種類	鉱さい	汚泥	ガラスくず	廃プラスチック類	木くず
自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0 t	700.5t	0 t	0 t	0 t

【目標】

産業廃棄物の種類	鉱さい	汚泥	ガラスくず	廃プラスチック類	木くず
自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	0 t	500t	0 t	0 t	0 t

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

【前年度 (R5 年度) 実績】

産業廃棄物の種類	鉱さい	汚泥	ガラスくず	廃プラスチック類	木くず
自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t

【目標】

産業廃棄物の種類	鉱さい	汚泥	ガラスくず	廃プラスチック類	木くず
自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

【前年度 (R5 年度) 実績】

産業廃棄物の種類	鉋さい	汚泥	ガラスくず	廃プラスチック類	木くず
全処理委託量	31t	5.7t	1.8t	0t	1.68t
優良認定処理業者への 処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	1.68 t
再生利用業者への 処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
認定熱回収業者以外の熱 回収を行う業者への処理 委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t

【目標】

産業廃棄物の種類	鉋さい	汚泥	ガラスくず	廃プラスチック類	木くず
全処理委託量	50t	10t	5t	5t	5t
優良認定処理業者への 処理委託量	50t	10t	5t	5t	5t
再生利用業者への 処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
認定熱回収業者以外の熱 回収を行う業者への処理 委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t